



市民病院

# 八十ちゃん通信

問合せ  
市民病院管理課  
☎(48)5050

## 病院から地域へ

### 感染症の早期対応をめざして

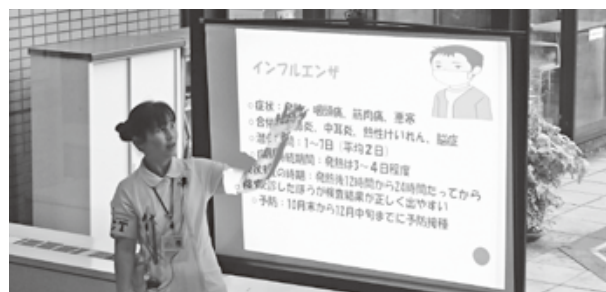
はじめまして、平成24年4月から感染対策チーム（以下ICT）で感染管理をしている看護師の生田幸江です。今回はICTを紹介します。

ICT（Infection control team）とは感染対策チームの略語で、感染対策の実働部隊です。メンバーは医師・薬剤師・検査技師・看護師で構成され、それぞれ感染管理に対するライセンスを取得しています。活動の1つとして、菌が検出された入院患者を対象とし、その人の病歴や病状から適正な抗菌薬が使用されているか、薬は効いているかなどあらゆる視点から病院内をチームで巡回しています。互いの得意分野での意見交換を活発にし、皆さんがよりよい状態になるようにサポートしています。

感染対策活動は衛生管理の徹底と、免疫力の低い人がかかってしまう感染症の存在を念頭に置いた対応です。

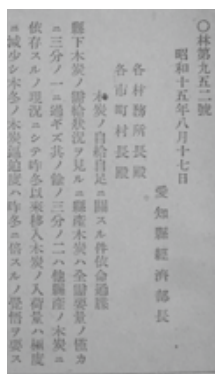
手洗い・清掃・感染性廃棄物の取り扱いなど基本的な衛生管理の周知徹底は感染対策上重要です。今後も感染対策活動を充実していくよう努力していきますが、それには皆さんの協力が必要です。感染対策の基本は「手指衛生」です。初歩的なことを怠ると大きな感染につながります。外来患者の皆さん、ご家族、面会する皆さんも病院へお越しの際は、出入口または病室の壁に設置してあるアルコールでの手指衛生にご協力をお願いします。

最後に私の活動の1つとして、市の出前講座に登録しており、無料学習会も行っています。是非ご利用ください。

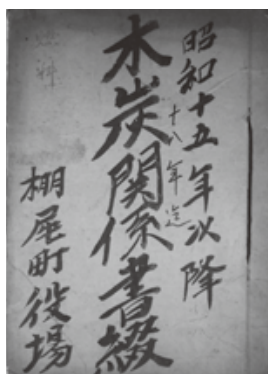


## 碧南の歴史へのいざない

### No.15 木炭、戦時中は・・・



△「木炭ノ自給自足ニ関スル件依命通牒」  
（西端村資料）



△「木炭関係書綴」  
（棚尾村資料）

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

今年は戦後70年にあたります。そこで、戦時中の生活の一部を紹介したいと思います。当時の重要な資源の一つに木炭がありました。木炭は家庭用だけでなく、自動車の燃料など暮らしのなかで日常的に使われていました。

昭和15年（1940年）8月17日に愛知県から出された「木炭ノ自給自足ニ関スル件依命通牒」（西端村資料）には、「木炭の入荷量が前年の冬から激減していて、今年は更に減りそうなので、なるべく自給自足で木炭を補えるようにしましょう」というようなことが書かれています。

その影響か、同年9月に自家用木炭を作る講習会の案内が明治村の農会から出され、また、木炭をどれだけ使ったかを業種別で分類し、それぞれの消費量を細かく調査した資料も「木炭関係書綴」（棚尾村資料）として残されています。今とは違い、戦時中は物資が少なく、さまざまなものが厳しく制限されていたことがわかります。（碧南市所蔵資料より）